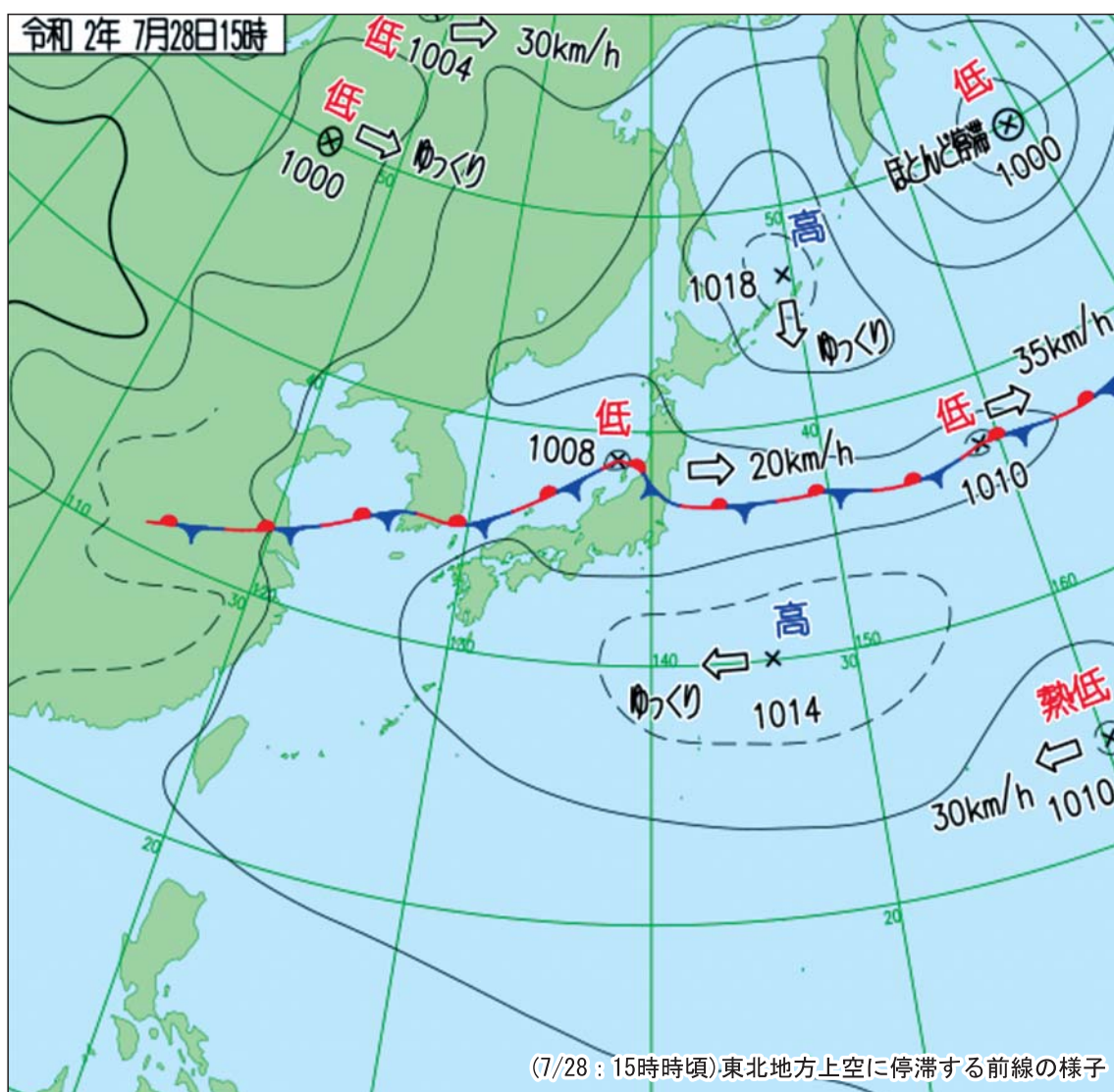


第1章 災害の発生まで



気象状況の記録について、出典の記載のないものは、山形地方気象台が公表している「山形県災害時気象資料令和2年7月30日公表」(以下、「気象台資料」という。)から引用している。

1. 気象概況

《令和2年7月豪雨の気象概況》

(以下気象台資料より一部加工して引用)

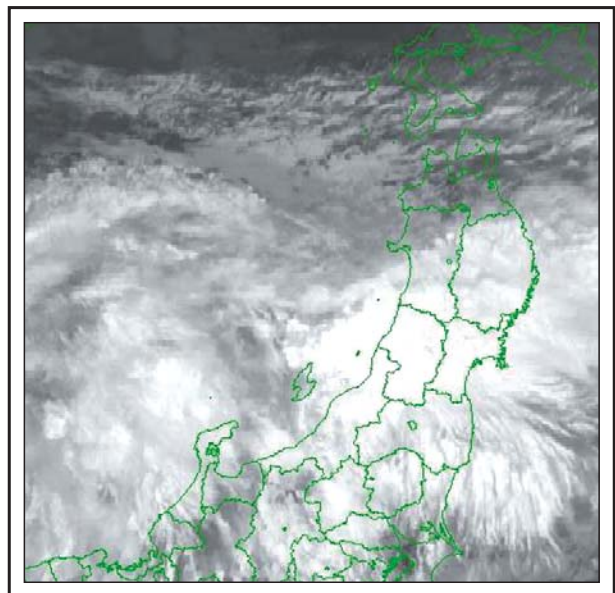
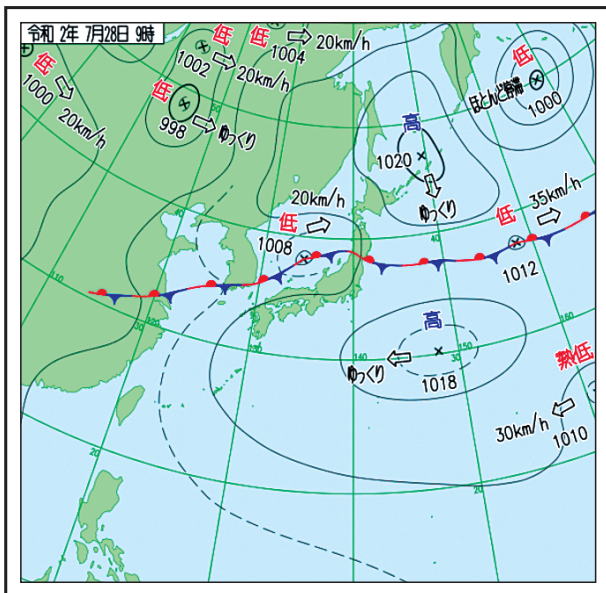
令和2年7月下旬、東北地方に梅雨前線が停滞し、前線上の低気圧が28日に日本海から東北地方に接近した。前線や低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が不安定となり28日を中心に大雨となった。

山形県では、26日午後から29日午前にかけて雨が降り続き、26日16時から29日12時までの総降水量は、鶴岡市荒沢で267.0mm、西川町大井沢で249.0mm、小国で246.0mm、長井で236.0mm、大蔵村肘折で216.5mm、山形で187.0mmを観測した。なお、28日の日降水量は西川町大井沢215.0mm、長井203.0mm、大蔵村肘折183.5mmなど5地点で観測史上1位を更新し、記録的な大雨となった。

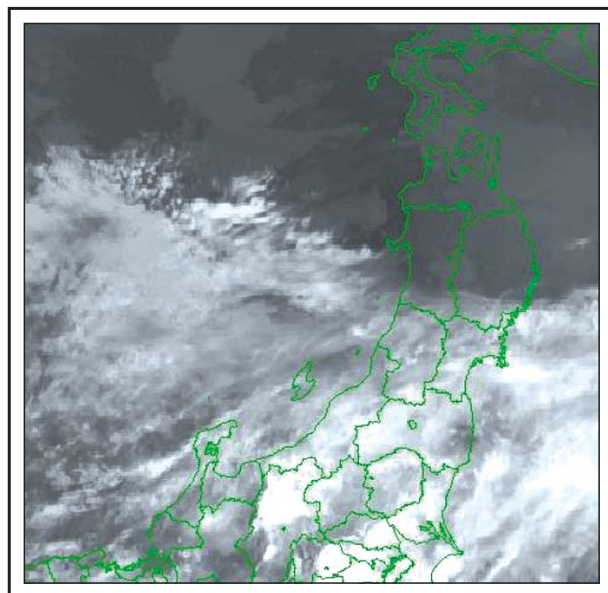
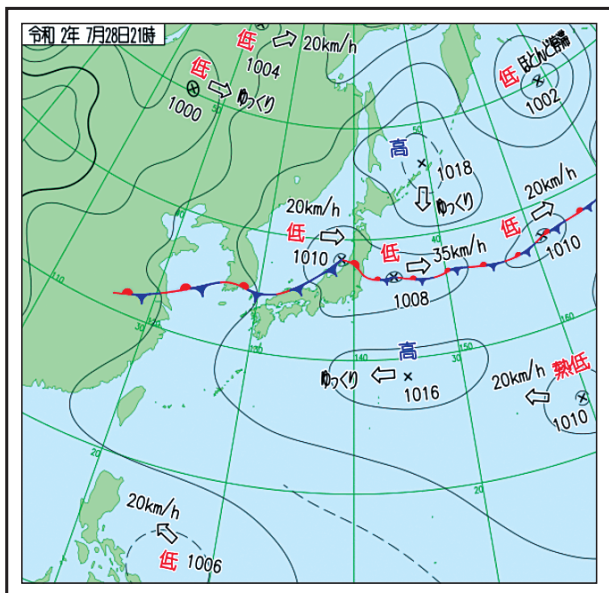
この大雨により、村山、最上を中心に県内各地で土砂災害や河川の氾濫が発生した。29日には最上川中流で氾濫が発生し、村山地域を中心に多くの家屋が浸水する被害が発生した。

河北町においても、28日の10時頃から16時頃まで1時間に10mmを超える降雨が観測され、26日21時の降り始めから29日23時までの積算雨量は181mmを記録した。この大雨の影響による山間部の土砂崩れ、また最上川の水位の上昇に伴い、支流河川が行き場を失い溢水が発生。押切地区、溝延地区を中心に多くの住宅で浸水被害が発生した。さらには大規模な農地冠水並びに工業団地の冠水も発生し農業・商工業へ甚大な被害が出た。

○地上天気図と気象衛星画像（上空から見た雨雲の様子）

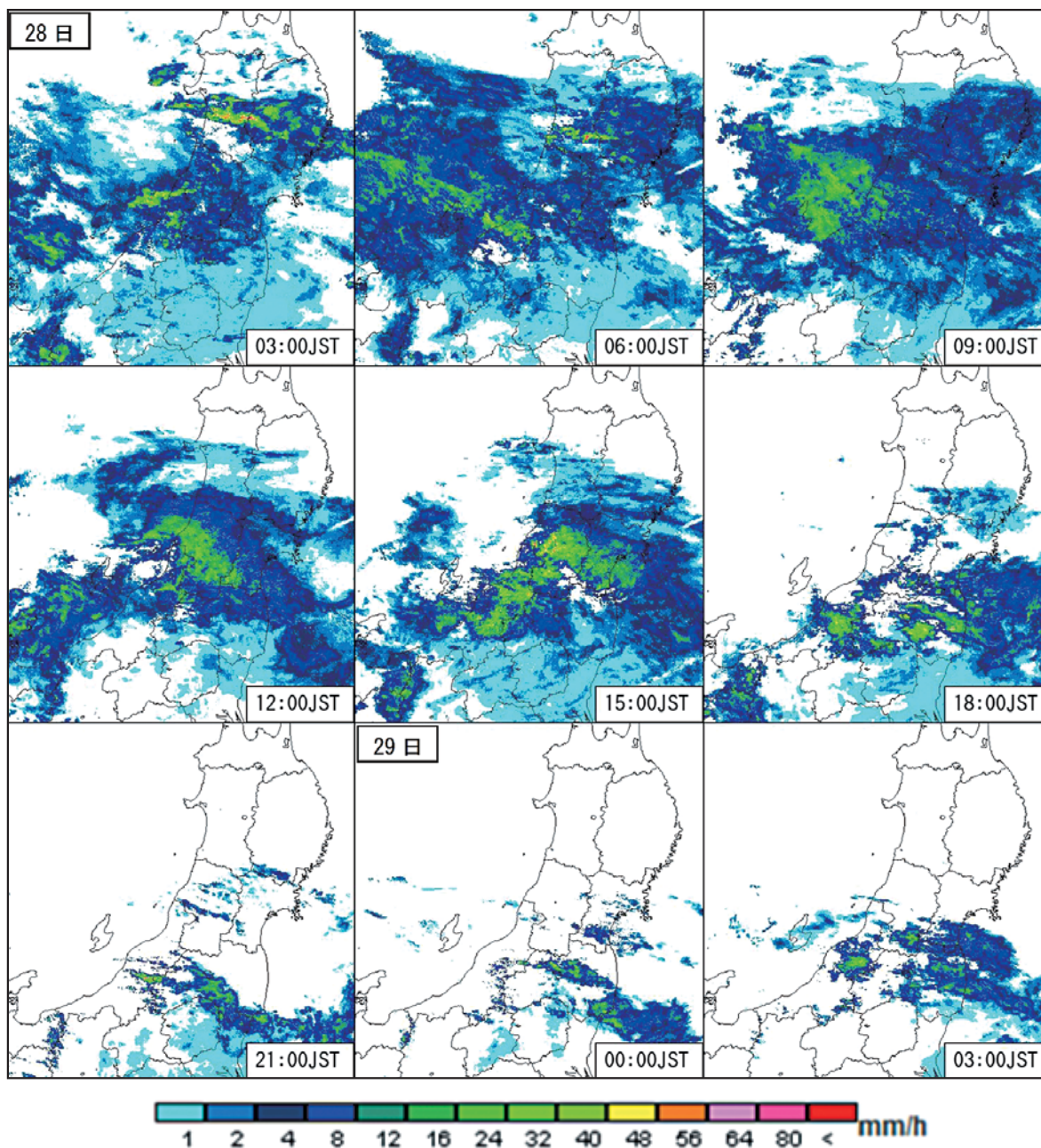


7月28日09時

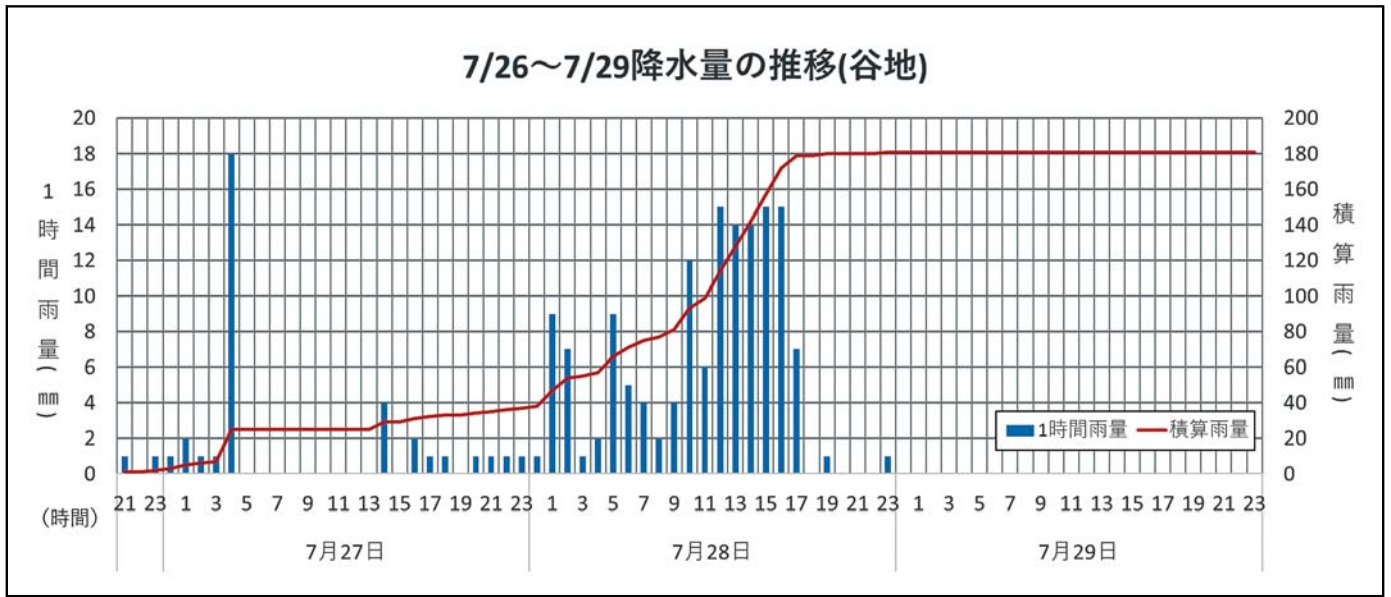


7月28日21時

○気象レーダー画像（3時間毎の雨量）



○河北町における降水量の推移

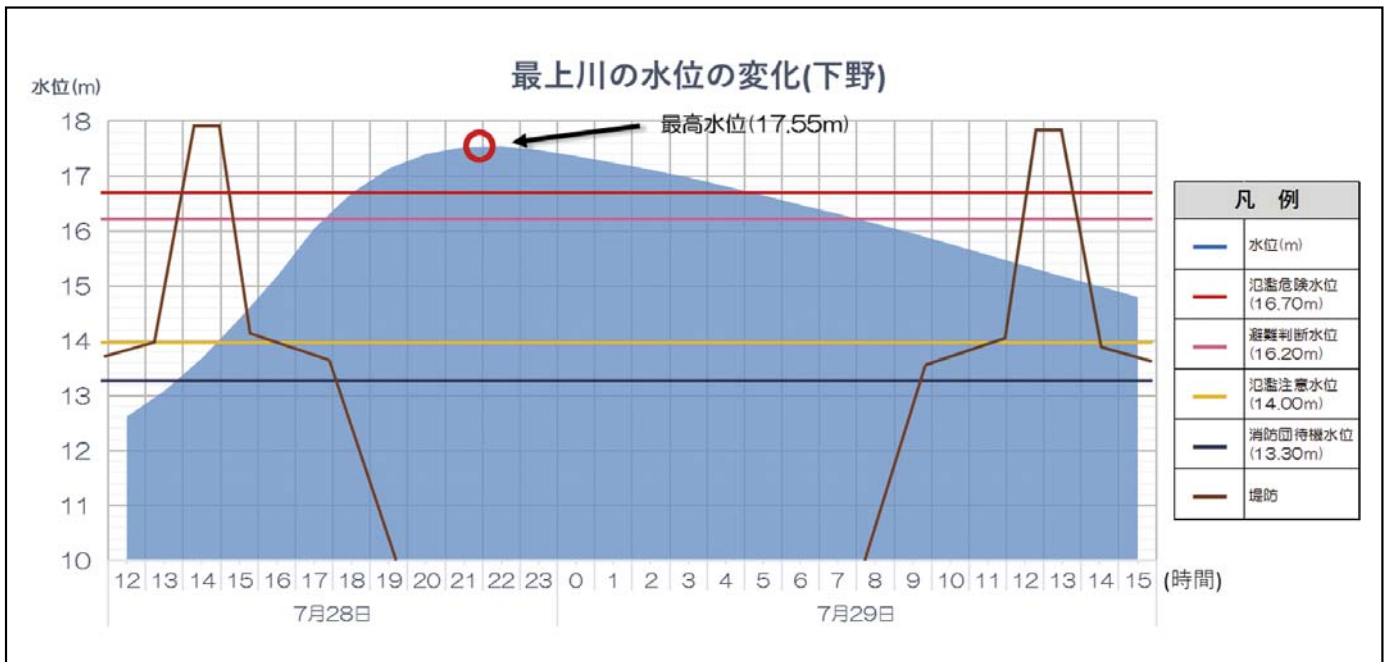


「山形県河川・砂防情報システム」より数値を引用し作成

《河川の状況》

7月26日より降り出した雨は、27日の朝から次第に強さを増し、28日10～16時頃ピークを迎え各地で観測史上最高値を更新し記録的な大雨となった。

河川の状況については、最上川下野観測所の水位変化を見てみると、28日14時30分頃に氾濫注意水位(14.00m)を超え、17時20分頃には避難判断水位(16.20m)に到達、その後も水位を増し18時10分頃に氾濫危険水位(16.70m)を超えた。時間と共に水位はさらに上昇し、21時10分頃に観測史上最高水位(17.55m)へ到達した。



「山形県河川・砂防情報システム」より数値を引用し作成